

農研第 4 1 4 号
令和 8 年 7 月 2 日

各 関 係 機 関 御 中

石川県農林総合研究センター所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

令和 8 年度病虫害発生予報第 4 号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 農業試験場 中央普及支援センター 病虫害防除室 電 話 076-257-6972 (直通) F A X 076-257-9140
-----	--

病虫害発生予報第 4 号 (予報期間：7 月中旬～8 月上旬)

予報内容

水 稲

紋枯病の発生は**多**と予想される。発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

斑点米カメムシ類の発生は**多**と予想される。出穂後の好天により水田侵入が助長されるので、防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める。【病虫害発生予察注意報第 2 号（令和 8 年 7 月 2 日付）参照】

フタオビコヤガの発生は**やや多**と予想される。今後の発生状況に留意するとともに、基幹防除を徹底する。

果 樹

カメムシ類の発生は**多**と予想される。発生を認めた場合は直ちに防除する。

【病虫害発生予察注意報第 1 号（令和 8 年 6 月 1 1 日）参照】

アブラムシ類、ハダニ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。発生減となる下草を刈り取った後に防除する。

野菜・花き（さつまいも、やまのいもを含む）

コガネムシ類の発生は**多**と予想される。防除適期は7 月上旬から 8 月上旬である。

シロイチモジヨトウの発生は**多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底するとともに、施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。

アザミウマ類、アブラムシ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

オオタバコガの発生は**やや多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底する。施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。

ネギハモグリバエの発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

ハダニ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※ 病虫害防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

6～8月は農薬危害防止運動期間です。

—気 象 予 報—

1 か月予報 （令和8年6月25日付け 新潟地方気象台）

予報期間 6月27日～7月26日

[確率予報]

気 温	低い	10%	平年並	40%	高い	50%
降 水 量	少ない	40%	平年並	30%	多い	30%
日照時間	少ない	30%	平年並	40%	多い	30%

[概要]

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

- ・ 6月27日（土）～7月3日（金）
平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 7月4日（土）～7月10日（金）
平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 7月11日（土）～7月24日（金）
平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

注 1) 発生量は平年比。
 2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(－) は不適要因、
 (±) は好適・不適に関与しない要因を示す。

1 水稻の病害虫

穂いもち

発生時期	出穂期以降
発生量	並
予報の根拠	(1) 葉いもちの初発確認時期が平年より1週間早い(+) (2) BLASTAMの感染好適日の出現延べ日数は多 (+) (3) 気温は高い (－) (4) 降水量はほぼ平年並み (±)
防除上の注意事項	(1) 出穂期前に発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。 (2) 出穂期前後の降雨は発生を拡大させるので防除を必ず実施する。 (3) 葉いもち常発地域では、出穂前後の防除後も進展が見られる場合、追加防除を実施する。

紋枯病

発生時期	垂直進展期は7月中旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生は未確認 (－) (2) 前年の発生はやや多 (+) (3) 現在の茎数はやや多 (+) (4) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。 (2) 前年発生した圃場や茎数の多い圃場では、多発する可能性があるため留意する。

斑点米カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 雑草地における斑点米カメムシ類の発生は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 出穂7～10日後と14～17日後の2回の防除を徹底する。 【病害虫発生予察注意報第2号（令和8年7月2日）参照】

セジロウンカ

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 予察灯での誘殺は早い、本田すくい取りでの捕殺は遅い (±) (3) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 今後の飛来状況によっては多発するおそれもあるため留意する。

コブノメイガ

発生時期	多飛来期は7月下旬
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 今後の飛来状況によっては多発するおそれもあるため留意する。

ツマグロヨコバイ

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 今後の発生状況に留意する。

フタオビコヤガ

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) フェロモントラップでの誘殺数は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 今後の発生状況に留意する。

2 大豆の病害虫

紫斑病

発生時期	感染時期は幼莢期
発生量	少
予報の根拠	(1) 前年の発生は少 (－) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並み (±)
防除上の注意事項	(1) 防除適期は幼莢期から子実肥大期である。

ウコンノメイガ

発生時期	7月中旬以降
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 生育が旺盛な圃場、葉色が濃い圃場で多発するので注意する。 (2) 7月6半旬に1茎あたり葉巻数が2個を超えた場合、直ちに防除する。

アブラムシ類

発生時期	7月上旬以降
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

3 果樹の病害虫

ナシ黒星病

発生時期	連続発生
発生量	少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。

ナシ黒斑病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

リンゴ斑点落葉病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の薬剤防除を徹底する。

カキ炭疽病

発生時期	連続発生
発生量	少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。

カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 予察灯での誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 発生を認めた場合は直ちに防除する。

【病害虫発生予察注意報第1号（令和8年6月11日）参照】

アブラムシ類

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハダニ類（なし、りんご）

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並（±） (2) 気温は高い（+） (3) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。 (2) 発生源となる下草を刈り取った後に防除する。

4 野菜・花きの病害虫

うどんこ病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は並（±） (2) 気温は高い（+）
防除上の注意事項	(1) 過繁茂を避ける。 (2) 施設では過度の乾燥を避ける。

軟腐病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少（－） (2) 気温は高い（+） (3) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 作業中は作物を傷つけないように注意するとともに、害虫防除を徹底する。

スイカつる枯病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少（－） (2) 気温は高い（+）
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。 (2) ほ場の排水に努める。

スイカ炭疽病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少（±） (2) 気温は高い（+） (3) 降水量はほぼ平年並（±）
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の防除を徹底する。 (2) ほ場の排水に努める。

スイカ疫病

発生時期

連続発生

発生量

少

予報の根拠

- (1) 現在の発生は少（－）
- (2) 降水量はほぼ平年並（±）

防除上の注意事項

- (1) 降雨によって感染が助長されるので防除を徹底する。
- (2) ほ場の排水に努める。

カボチャ疫病

発生時期

連続発生

発生量

並

予報の根拠

- (1) 現在の発生は並（±）
- (2) 降水量はほぼ平年並（±）

防除上の注意事項

- (1) 降雨によって感染が助長されるので防除を徹底する。
- (2) ほ場の排水に努める。

ネギ黒斑病

発生時期

連続発生

発生量

並

予報の根拠

- (1) 現在の発生は少（－）
- (2) 気温は高い（＋）

防除上の注意事項

- (1) 降雨前後の防除を徹底する。

ネギハモグリバエ

発生時期

連続発生

発生量

やや多

予報の根拠

- (1) 現在の発生は並（±）
- (2) 気温は高い（＋）

防除上の注意事項

- (1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

アブラムシ類

発生時期

連続発生

発生量

多

予報の根拠

- (1) 現在の発生はやや多（＋）
- (2) 気温は高い（＋）

防除上の注意事項

- (1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハダニ類

発生時期

連続発生

発生量

やや多

予報の根拠

- (1) 現在の発生は並（±）
- (2) 気温は高い（＋）
- (3) 降水量はほぼ平年並（±）

防除上の注意事項

- (1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

アザミウマ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

オオタバコガ

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。 (2) 施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。

シロイチモジヨトウ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数はやや多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。 (2) 施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。

コガネムシ類 (さつまいも、やまのいも)

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) コガネムシ類の予察灯誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 防除適期は7月下旬から8月上旬である。